

公民館だより

ひかりの

No. 22 号

59. 10. 1



おらが道

市道等は原則的に市が維持、管理するものであります。

しかし、市内七二八路線、延四九二Kmに及ぶ道路は現実的には百分の維持、管理は困難であります。

やはり最も利用する住民が、できる範囲の奉仕によって使い易く、使うのが良いと思われま

す。
この自治会では路巾が狭く、又、使用数も少く舗装されなかった道路を、自治会内で話し合い皆んなの力で見ごと舗装工事を完成しました。

ごくろうさまでした。

東野と文化

渡
辺
浩
光

公民館から、みだしのようなテーマで何かを……とのことでした。しかし、不勉強のせいがいざあらたまって東野の文化といつてもすぐにこれだと言えるものが思い浮かんできませんので、ここでは、漠然と東野の文化性というようなことで私なりのイメージを述べてみたいと思います。

お世辞かも知れませんが、私は「東野は教育村である」という声を既に戦前において他地区の人から聞いたことがあります。そういえば、比較的人口の少ない農村としては他町村に比べて向学の徒が多かったようであるし、また、東野出身壮丁の軍隊での成績なども極めて優れていたと言われます。教育に熱心であるということは、そのまま教

養を重んずる文化的な民度の高さを示すものとみてよいでしょう。しかし、それにしては、東野には文化的に特別きわだった風土色の濃い独自のものが不思議に育っています。だから、東野の文化性は、独自の文物のユニークさではなく、むしろ逆に、すべてが中庸的で常識的な一般文化だが、それが平均してよく住民にゆきわたっているというところにあるような気がします。

何故そうなんだろうかと、私なりに理屈をひねって考えてみました。それは、①、東野の土地が桑と稲の生育によく適し、どの農家も養蚕と米作に力を入れ、現金収入のある比較的安定した生計を維持してきたこと、②、日頃の折角の経済的蓄積を崩壊してしまうような大きな自然災害が少なかったこと、③、東北地方のような大地主制が発達せず、小規模ながらも自分の土地を所有する自作または自小

作農層が大多数を占め、貧富の差があまりなかったこと、④、古くから山林の大部分を共同所有として管理し、村民共同の福利に生かしてきたこと等々の事情によるのではないかということとです。即ち、東野の、強烈な個性はないが堅実でおだやかなまた常識的で中庸的な文化性のイメージの背景には、そのように比較的恵まれた自然的、社会的条件による村民共通の生活基盤の安定性があったからであると推論するわけです。

そして、そのことがまた、東野には 大地主・豪農がリーダ―あるいはパトロンとなつて育てた特別の文化遺産というものを欠くことにもなつていゝと思ふのです。それはまた、陰うつな長い雪の冬に閉じこめられ、小作百姓として厳しい労働にも耐えねばならなかつた東北農村に見るような、忍従のエネルギーの裏返えしの吐け口とも言えゝ。そんな祭り行事や芸能の如き、

風土色濃き民俗文化が東野には生まれにくかったわけでもあるかと想像するのです。

ところで、安定に住する者は
変革を好みません。祖先から受
け継いだ財産や生活のパターン
を堅く安全に守り子孫に伝えて
いきたいと願う保守的傾向を帯
びます。東野文化にはそうした
保守性を感じられるような気が
します。私たちは、ただ消極的
で無思考の、知的活性を欠いた
保守性のなかでは文化の創造的
発展はないことを自戒しなければ
ならないでしょう。

世の中の進展が急速で価値観もまた多様化し、益々変動の激しい現代にあって、この東野として守るべきものは何であり、さらに開眼すべき価値は何なのかを冷静に見すえていく知性と勇気が今日ほど大切なときはないと思います。

(恵那市文化協会副会長)

団体だより

体育連盟東野支部

今までに体協主催で行われた東野支部内の行事の結果を報告致します。

大会名	期日	参加者数	1位	2位	3位
第13回 ソフトボール	4月 22日	120名	7分団	2分団	1分団
第8回 女子バレーボール	5月 26日27日	80名	6分団	2分団	3分団下 5分団
第2回 バトミントン	6月 16日17日	50名	6分団	5分団	7分団
早朝野球	8月12日 ～18日	110名	5分団	7分団	1分団 6分団

交通安全協会

東野支部

九月二十八日の法令講習の席で次の方々の表彰がありました。

(県警本部長、県安協表彰)

優秀章 篠原佳昭、西尾暁洋
優良章 三宅克博、千藤重明

水野和子、伊藤茂和
夏目隆司、渡辺チズ

三宅ふみ子、渡辺修
丸山文憲、西尾茂芳

三宅成具、伊藤昌平
松浦弘

模範章

長谷川裕通、伊藤年通

三宅佐子、千藤和子

千藤美智子、千藤隆也

岡本光美、伊藤常光

(恵那警察署、同安協表彰)

二十二名

東野

読書サークル

みどり会



「本を読むことは自分をよむことです。」

先日、恵那市文化センターで、開かれた東濃読書大会で、渡辺春正先生が言われたことばです。恵那市には、十一の読書サークルがあります。その一つに、東野読書サークルみどり会があります。毎月第一木曜日七時三十分より二時間程の例会を、東野公民館図書室にて開いております。メンバーは、只今十九名三十才、四十才台を中心に、六十才台まで幅広くおります。悩みは、主婦のため、全員が揃わ

“地域ぐるみで

守ろう子供と老人”



ない事です、無理をしない事が長続きのできることであります。今年度は、「宮尾登美子の作品と生き方」「東野の昔話」「新美南吉の作品、あめ、いぼ」を話し合いました時には松本英雄氏、田口教頭先生のご指導をいただきました。本を読むことの他に、どうしても子育てのことが話題になります。学級会などと違い、子供の年令の異なる者が教え合い、話し合っております。一ヶ月一度の二時間を、私たちとすごしてみられませんか。本を読んだ感想は、一人一人違うものです。皆して意見を交すことにより一冊の本からいろんな人生に出会うことができます。一人でも多くの仲間が増えることを、待っております。

連絡

赤尾幸子

を持っていたので、私は少年の頃必ず鳥屋場でその年の何日かをこの霞網猟を楽しんだ。が

霞網獵の第一位の獵鳥で、一獵期に木曾谷だけの收穫が二十万羽を下らないと言われている。

但しこの霞網猟は終戦後の昭和二十二年狩猟法の改正で、全部の猟鳥が保護鳥となった。その為の霞網猟は禁止されて今日に至っている。その為めか「山道」の保古一帯の描写がなつかしかった。

次に私の少年の日への思慕は母の実家へ遊びに行くことだった。母の実家には、祖父母がまだ健在で歓待してくれた。母の実家へ行くのにはどうしても当時は上野平を通らねばならなかった。向島の家から一里半位はあると思うが、少年の足と心は素朴に強かった。当時とは明治末年から大正初年事である。当時の上野平は各地に赫土が露呈した雑木林で松が点在していた。現在宗久寺の裏山の様な状況で、「平」と言う通り、なだらかな傾斜が延々と片や茄子川部落へ、片や

大井の部落にのびていた。人鳥の通る山道を、少年の一念で歩いたのだ。

今その上野平が、美田となつて眼前にあるのである。立派な人家が点在する。全く夢である。然も美しき夢である。但し「山道」は教える。この時代の味噌は夫々の家が必ずつくるものだったが今はつくらない。たいていの人が買う時代であることが正しい時代であらうか。

「山道」について

昭和十九年、農村作家上泉秀信氏著で東野の火塚平開墾と保古の湖の建設を小説化したものである。

あくまでも小説であり当時の
事実と相違した点もあるが、人
間がいかなる仕事をしたかを記
した小説である。

「山道」(再版)ご希望の方は東野観酔会員に申し込んで下さい。

私達の健康は私達の手で

西尾芳

昨年、保健所と恵那市の指導で開設された栄養教室は、今年から食生活改善連絡協議会として、二年目の活動に入っています。

食生活にもっと関心を持って、正しい食生活のあり方を学び、私達の健康は私達の手で〃を合言葉に毎月一回の学習をしています。

成人病予防食、婦人に多いといわれる貧血の予防食、子どもの食事などの調理実習のほか、成人病検査、水質検査、体操なども行われました。

毎月、血圧測定もしていただけることから、自分の平常値を把握出来、健康管理の上でのチェックポイントになっています。

又 八月に実施された味噌汁の塩分測定では、理想濃度は1%程度だそうです。比較的、辛い家庭もみられることから、改めて、脳卒中の多い東野地区と塩分摂取の関係も考えさせられました。

長年、慣れ親しんだその家々の味付けや好みは、なかなか変えることは出来ないかもしれないが、せんが、毎日口にする一杯の味噌汁から、わずかづつでも塩分を減らすように心がけることが大切だと感じました。

こうした学習を通して、健康と栄養の関係を理解し、食生活の改善に努力することが、家族の健康維持に役立つものと思っています。

(食生活改善連絡協議会会長)

過去、現在、そして……

かつて、この東野に論議と決断をなした出来事は数多い。大正中期の白坂開墾と保古湖堤の建設、昭和二十九年の町村合併、同四十九年の農協合併、又最近では阿木川ダムの建設問題等、これらはいずれも遂行上全村或は一部により激しい議論がなされ、指導者により良き決断をなされ今日に至っている。

今回論じられている県は事業においても住民総参加により、真摯な議論をなし、今後に悔いのない対応をせねばならない。

夏果てぬ

花無山句会

花も有り残雪もあり永平寺

伊藤公道

花の人お水送りの篝跡

丸山瑞月

あめんぼう飛び立つ構で止りけり

長谷川梧葉

軒ぐろは柴陽花ばかり母の里

千藤恩三

若狭路の古仏も花も旅土産

松本春美

膳運ぶ娘は白緋飛驒の宿

市川芳子

螢追い子の存在を忘れけり

伊藤道子

口上を汗して述べる文楽師

加藤裕子

豊作の西瓜配りし楽しさよ

西尾筍子

南天の花びら浮かす手水鉢

西尾美恵子

禅房の床半夏生活けありぬ

大野益女

樞の花訪ひ重ねたき明通寺

鈴木拘風子

わだい

東野自主防災隊

8月24日設立



大地震等、大きな災害が発生すると電話の不通、道路の地割れ、橋の落下や火災が発生したりして生命が危険にさらされます、普段は頼りになる消防や警察も、早く、しかも全域への救援活動が困難です。

そこで東野でも、「いざ」に備えて自主防災隊が設立された。

どんな活動をするか(平常時)

○防災知識の普及、○災害予防

○防災訓練、○防災資機材の備蓄

(災害時)

○緊密な連絡を取りましよう、

○災害被害情報を正確に伝達す

○炊き出し、給水、○救出、救

護、避難、○初期消火、水防活

動など

編成は隊長に東野自治連合会長副隊長に同副会長を選任し、本部に各用水組合代表、生森組合長を任命、各単任自治会長は班

長として班(自治会)をそれぞれ掌握していただくことになりました。

夏祭り



今年の納涼夏祭りは8月11日に自治連合会主催、各種団体共賛で行われました。

六時三十分からの映画会「杜子春」「銀河鉄道999」「恵那市制30周年記念映画」を行い親子で楽しく観賞しました。

映画を終って踊りの輪をつくり恵那峡音頭など六曲をくり返しました。

輪の外では自治会長さんが店主となつて金魚すくい、割り水婦人会のバザーなども並び暑かった夏の夜をすぎました。

始めて自治連合会の主催で取り組みましたが自治会長さんの力でこの行事始まって以来の成功であったと思われれます。

敬老会

会



九月十五日敬老の日、七十五才以上の方(明治四十二年九月十五日以前出生)のお祝いが公民館で行われました。

今年は男四十二名、女六十名と昨年よりやや多く東野総人口の五、四五%となります。

婦人会役員皆さんの親切な接待と大正琴、民謡講座生の発表などもあり、終始楽しく昔の思い出話などに花を咲かせて過ごされました。

次の方々に祝金及び記念品が贈られました。

八十八才

土方ひさの、伊藤孝重

足立たま、小坂ちら、千藤清

七十七才

丸山勲郎、三宅彦十

水野武夫、千藤正子

光岡ふじ

第24期東野公民館

定期教養講座生募集

募 集 要 項

1. 開設期間 昭和59年11月～昭和60年3月(毎月2回)
2. 受講料 1科目 1,300円 申込みと同時に納入して下さい。
3. 申込期日 10月20日
4. 申込先 東野公民館
5. 開設時間 午後7時00分～9時00分
6. その他 (但し講座により話し合いで決める。)

※ 講座により資料代・材料代は実費をいただきます。
※ 希望者が少ない場合は中止することがあります。

講座名	講師	目 標	持 参 品	開催予定日
編 物	坪井弥栄子	子供からお年寄りまで家族で利用できる手造りの暖かさを	かぎ針・棒針・筆記用具	第2・第4金曜日
花 道	林 俊幸	日常生活に活用できる生花作法の習得	ハサミ・剣山ヤゲン・花器	第2・第4木曜日
民 踊	小森 さつ	たのしい民踊をおぼえ、明るい家庭と健康づくりに役立たせる	手ぬぐい	第2・第4月曜日
大 正 琴	山本まつの	日常生活のメロデーを、誰でも引けるように。初歩から楽しく	大正琴・譜面台あつせんする	第2・第4火曜日
社 交 ダ ン	田口 祐英	初心者を対象に楽しく踊る。	やわらかいはき物	第2・第4木曜日
俳 句	鈴木抱風子	俳句を通し生活にうおいを	筆記用具	その都度
茶 道	篠原 はる	初めて習う方のため、基本的なお点前と作法をやさしく	申込者に直接連絡します。	第1・第3木曜日

編集雑記

暑かった夏も過ぎ、さわやかな秋を迎えました。
館だより22号をお届け致します。

今年は天候にも恵まれ、又、稲作も平年以上ともいわれ、平穩な年ようです。

しかし、この地から100Kmと離れない長野県玉滝村では二十九名の死者、行方不明者がでております。私事です、たまたま7月にあの地へ訪づれる機会がありました、あの時声をかけた人は無事であろうか、あの家は……などと心配せずにはおられません。

そんな思いの方はまだ多くみえることと思います。
たとえ米一弁分なりと救済募金などはいかがなものでしょうか。

さて今号も多くの方から原稿を頂きました、厚くお礼申し上げます。

尚、「公民館だより」、公民館運営に対するご意見、ご希望がありましたら直接、又は運営委員を通して気楽にお寄せ下さい。

(千藤 記)